

教育・実務業績書（専門職大学等の教員）

平成29年11月15日

氏名 山本 央子

職 業 分 野	職 務 内 容 の キ ー ワ ー ド	
ドッグトレーナー	動物行動学、しつけ	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 ・パワーポイントを使用した講義・実習	平成17年4月～ 現在に至る	ヤマザキ動物専門学校動物看護・美容学科担当科目「トレーニングⅠ」、「トレーニングⅡ」、「トレーニングⅢ」の講義および実習においてパワーポイントを使用し、視覚的な面からも理解が深まるよう配慮した授業を展開し、学生の理解度、満足度が高まり高い評価を得ている。 授業の内容は、1年次は犬の行動を適切に理解し、飼い主と愛犬のコミュニケーションに役立つ知識を習得させる。2年次は管理とトレーニング、環境設定と犬の行動の関わりを理解させ、高い臨床能力を習得させる。3年次は今までの基礎のもと、十犬十色「犬（の気持ち）」を理解し、イヌの扱い（ハンドリング技術）をさらに習得させる。
・パワーポイントを使用した講義	平成18年4月～ 平成29年4月～ 現在に至る	帝京科学大学アニマルサイエンス学科担当科目「アニマルセラピー概論」、「アニマルセラピー育成論」、作業療法学科担当科目「アニマルセラピー概論」、理学療法学科担当科目「アニマルセラピー」および医療福祉学科担当科目「アニマルセラピー概論」の講義においてパワーポイントを使用し、視覚的な面からも理解が深まるよう配慮した授業を展開し、学生の理解度、満足度が高まり高い評価を得ている。
・パワーポイントを使用した講義・実習	平成25年9月～ 現在に至る	ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科担当科目「コンパニオンドッグトレーニング論」、「コンパニオンドッグトレーニング実習」の講義および実習においてパワーポイントを使用し、視覚的な面からも理解が深まるよう配慮した授業を展開し、学生の理解度、満足度が高まり高い評価を得ている。 授業の内容は、3年次は犬種特性の行動や、社会とコンパニオンドッグの相互関係を基本に、犬に何を、どのようにして習得させるか。様々な犬具からトレーニング方法まで、より効果的に、かつ倫理に叶う適切な使い方、理想的なコンパニオンドッグの育成方法を習得させる。4年次は動物看護師として動物看護臨床における家庭犬のハン

		<p>ドリングに必要な技術および飼い主へのサポートに必要なコミュニケーション能力を習得させる。</p>
<p>2 作成した教科書、教材</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを活用した教材の作成 	<p>平成 17 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>ヤマザキ動物専門学校動物看護・美容学科の担当科目の「トレーニングⅠ」、「トレーニングⅡ」、「トレーニングⅢ」の講義および実習においてパワーポイントを活用した教材を作成し、配布している。</p> <p>口頭だけでは理解が不十分になると予想される点を重点的に映像化、閲覧させることで学習満足度の向上をはかる。様々な情報の中で、要点をいかに印象強く残すか、正確に伝えるか、理解させるかを目的に使用している。学習効果を促す役割を果たしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを活用した教材の作成 	<p>平成 18 年 4 月～ 平成 29 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>帝京科学大学アニマルサイエンス学科、作業療法学科、理学療法学科および医療福祉学科担当科目の講義においてパワーポイントを活用した教材を作成し、配布している。</p> <p>口頭だけでは理解が不十分になると予想される点を重点的に映像化、閲覧させることで学習満足度の向上をはかる。様々な情報の中で、要点をいかに印象強く残すか、正確に伝えるか、理解させるかを目的に使用している。学習効果を促す役割を果たしている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・パワーポイントを活用した教材の作成 	<p>平成 25 年 9 月～ 現在に至る</p>	<p>ヤマザキ学園大学動物看護学部動物看護学科の担当科目の「コンパニオンドッグトレーニング論」、「コンパニオンドッグトレーニング実習」の講義および実習においてパワーポイントを活用した教材を作成し、配布している。</p> <p>口頭だけでは理解が不十分になると予想される点を重点的に映像化、閲覧させることで学習満足度の向上をはかる。様々な情報の中で、要点をいかに印象強く残すか、正確に伝えるか、理解させるかを目的に使用している。学習効果を促す役割を果たしている。</p>
<p>3 教育上の能力に関する大学等の評価</p> <p>①学生による授業評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価 	<p>平成 20 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>ヤマザキ動物専門学校において毎年実施されている学生による授業評価アンケートによると、本人が担当している「トレーニングⅠ」、「トレーニングⅡ」、「トレーニングⅢ」は具体的であると評判はよく、学生から満足度の高い評価を得ている。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学生による授業評価 	<p>平成 20 年 4 月～ 現在に至る</p>	<p>ヤマザキ学園大学において毎年実施されている学生による授業評価アンケートによると、本人が担当している「コンパニオンドッグトレーニング論」、「コンパニオンドッグトレーニング実習」は具体的であると評判はよく、学生から満足度の高い評価を得ている。</p>

4 その他 なし		
実務上の実績に関する事項		
事項	年 月 日	概 要
1 資格、免許 ・認定セラピーアニマル・ハンドラー		
2 職務の経歴及び職務上の業績 ①動物福祉、動物愛護に関する講演活動	<p>平成 13 年 10 月 ～現在に至る</p> <p>平成 14 年 6 月</p> <p>平成 14 年 9 月</p> <p>平成 15 年 9 月</p> <p>平成 15 年 8 月</p> <p>平成 15 年 11 月</p> <p>平成 16 年 10 月</p>	<p>日本動物病院協会 JAHA 年次大会 「共に歩み、育む心」 概要：人と動物の関係の視点から、動物を介在させたプログラムのあり方を紹介する。</p> <p>社会福祉法人のゆり会 「セラピー・アニマルの適正審査」 「アニマル・セラピー・カンファレンス」 概要：動物を介在させたプログラムに参加する動物とハンドラーの活動における適正評価の重要性を紹介した。</p> <p>日本臨床獣医師フォーラム年次大会 「呼び戻し」 概要：家庭犬のしつけの基本である「呼び戻し」の重要性とトレーニング方法を紹介した。</p> <p>日本臨床獣医師フォーラム年次大会 「家庭犬のいる暮らし」 概要：人と暮らす犬と、犬と暮らす人の共に暮らす調和の説明をした。</p> <p>兵庫県動物管理局主催 「アニマル・シェルター／動物介在療法と活動」 概要：動物を介在させた様々なプログラムの実践例を紹介した。</p> <p>青森県主催動物愛護フェスティバル 「家庭犬との安全で幸せな暮らし」 概要：家庭犬として安全に育てることの重要性と正の強化を用いたトレーニング方法で紹介した。</p> <p>第 22 回日本ストレス学会学術総会 「動物介在療法（AAT）を用いた EAP カウンセリングの心理学的および生理学的指標による効果測定を試み」 概要：職場におけるストレス値と犬を介在させたプログラムの対象者のコントロール群との比較を報告した。</p>

平成 16 年 1 月	愛知県動物管理局主催 「日米シェルター事情／家庭犬との安全な暮らし」 概要：収容動物の行動と気質の適切な評価方法と安全な譲渡を説明した。
平成 16 年 2 月	北海道ボランティアドッグの会 「動物介在活動」 概要：実践現場における活動の監修と評価を説明した。
平成 16 年 2 月	静岡県動物管理局主催 「日米シェルター事情／家庭犬との安全な暮らし」 概要：収容動物の行動と気質の適切な評価方法と安全な譲渡を説明した。
平成 16 年 3 月	埼玉県動物管理局主催 「日米シェルター事情／家庭犬登録管理制度比較」 概要：畜犬登録の普及を欧米の実情と比較して日本における普及と民間教育の必要性を説明した。
平成 17 年 6 月	秋田県動物管理局主催 「家庭犬と楽しく暮らす」 概要：家庭犬に必要なしつけの技術を正の強化のトレーニング方法で紹介した。
平成 17 年 7 月	第 12 回日本産業精神保健学会 「動物介在療法（AAT）を用いた EAP カウンセリングの心理学的および生理学的指標による効果測定を試み」 概要：職場におけるストレス値と犬を介在させたプログラムの対象者のコントロール群との比較を報告した。
平成 18 年 6 月	秋田県動物管理局主催 「家庭犬と楽しく暮らす」 概要：家庭犬に必要なしつけの技術を正の強化のトレーニング方法で紹介した。
平成 18 年 7 月	第 1 回日本家庭犬トレーナーズ協会カンファレンス「家庭犬育成指導」 概要：ドッグトレーナーの職域としての飼い主への適切な指導に必要な知識と実践能力を説明した。
平成 19 年 6 月	秋田県動物管理局主催 「家庭犬と楽しく暮らす」 概要：家庭犬に必要なしつけの技術を正の強化のトレーニング方法で紹介した。
平成 20 年 7 月	第 3 回日本家庭犬トレーナーズ協会カンファレンス「餌付けの美学」 概要：家庭犬のトレーニングにおける、強化とし

		てのフードの適切な使い方を紹介した。
	平成 20 年 7 月	日本行動分析学会第 27 回年次大会 「家庭犬育成の変遷の日米比較」 概要：家庭犬のしつけの普及が欧米に比べて遅れている日本の現状を、歴史や社会的な背景を元に比較した考察を発表した。
	平成 22 年 12 月	日本行動療法学会 「医療現場への動物介在療法の導入」 概要：医療現場に療法の一環として動物を導入する際の適切な行程である「活動適正評価」と「施設評価」を紹介した。
	平成 23 年 11 月	茨城県獣医師会 「犬と快適に暮らす」 概要：家庭犬に簡単なしつけを施すことで、より快適な犬との暮らしを達成する行程を、実際の犬を使って紹介した。
	平成 24 年 5 月	日本行動分析学会主催 「しつけの落とし穴」 概要：体罰や嫌悪的な刺激を用いたトレーニング方法がなぜ不要であるかを、実際の犬とデモンストレーションを交えての講演と行動分析学者の人々とのディスカッションをした。
	平成 24 年 7 月	第 7 回日本家庭犬トレーナーズ協会カンファレンス「理論から実践へ学習理論と実践」 概要：学習理論の正しい理解の検証と、理論を適切に実践へと応用することの重要性を、映像を交えたスライドで発表した。
	平成 25 年 3 月	日本動物看護学会 「ペットと暮らす」 概要：ペットと暮らす人々への適切な飼養アドバイスの知識と技術を紹介した。
	平成 25 年 3 月	日本行動分析学会特別記念大会 「ペットと共に生きる」 概要：人と動物の関わりを歴史的、また社会的な背景からの視点による今後の展開への考察をした。
	平成 25 年 5 月	日本行動分析学会年次大会 「体罰排除がなぜ進展しないのか」 概要：現在の日本におけるしつけの中心となっている叱責による弊害と、なぜ体罰が排除されないのかをしつけの変遷と社会的な現状を提示しながら、正の強化によるしつけの普及の方向性を考えた。
	平成 25 年 7 月	第 8 回日本家庭犬トレーナーズ協会カンファレンス「理論から実践へ問題解決の道」 概要：学習理論や行動分析学などから学んだ行動

		<p>の原理を、実践にどのように応用していくのかを、実際の問題行動を分析しながら講演した。</p>
平成 25 年 9 月	京都市主催動物愛護フェスティバル	<p>概要：家庭犬がなぜ放棄されるのか、どのようにして終生飼養を普及するべきかを、収容動物の映像による行動変容の実践を紹介した。</p>
平成 25 年 11 月	京都市家庭動物相談所 「シェルター犬の評価とハンドリング」	<p>概要：京都市愛護センターで行われている収容動物への行動の分析と評価、譲渡への行程を紹介した。</p>
平成 26 年 3 月	京都市ボランティア養成講座 「シェルター動物とエンリッチメント」	<p>概要：京都市愛護センターで活動するボランティアの人々を対象とした、収容動物のハンドリング講習会である。</p>
平成 26 年 3 月	日本愛玩動物協会 「人と暮らす動物の福祉」	<p>概要：家庭犬が人と暮らす環境の中で、環境と行動のエンリッチメントの確立と、家庭動物への福祉のあり方を講演した。</p>
平成 26 年 9 月	peppy 主催セミナー大阪／東京 「学習と行動／行動の予防接種」	<p>概要：犬の学習能力を理論と実践のスライドで紹介しながら、社会科トレーニングの普及による問題行動の予防の可能性を紹介した。</p>
平成 26 年 10 月	日本動物看護職協会 「寝る子は育つ、良い犬に育つ」	<p>概要：家庭犬の飼養で最も重要な「眠りの確保」の重要性と、よく寝るいぬに育てる行程を紹介した。</p>
平成 27 年 6 月	長野県動物愛護センター主催 「犬の攻撃性」	<p>概要：家庭犬の人の社会における攻撃性の原因と分析、問題解決の行程を映像とデモンストラーションで紹介した。</p>
平成 27 年 8 月	高知県保健福祉生局主催 「幸せな終生飼養への路」	<p>概要：子犬から成犬まで、様々な環境から人の暮らしに招かれる犬の、終生飼養に必要な育て方を紹介した。</p>
平成 27 年 9 月	peppy 主催セミナー大阪／東京 「排泄と暮らしのリズム」	<p>概要：子犬から成犬まで、人との暮らしにおける排泄のトレーニング行程と、排泄による様々な問題解決の方法を紹介した。</p>

	<p>平成 28 年 6 月</p> <p>平成 28 年 9 月</p> <p>平成 28 年 10 月</p> <p>平成 29 年 2 月</p> <p>平成 29 年 6 月</p>	<p>長野県動物愛護センター主催 「アニマルセラピー活動適性評価審査」 概要：長野県愛護センターでふれあい活動に参加する犬とハンドラーへの、活動における行動と気質の適正評価を説明した。</p> <p>peppy 主催セミナー大阪／東京 「餌付けの美学」 概要：犬のトレーニングに用いるフードの様々な役割、好ましい行動への強化としての適切なフードの用い方を、理論と実践の映像で紹介した。</p> <p>秋田県県民共済主催 「楽で楽しいしつけのヒント」 概要：飼い主の日々の生活の中で愛犬に教えることができる、様々なしつけの方法を紹介した。</p> <p>熊本市愛護センター主催 「環境と行動のエンリッチメント」 概要：愛護センターに収容されている動物たちの環境と行動のエンリッチメントの確保とその重要性を紹介した。</p> <p>長野県動物愛護センター主催 「アニマルセラピー活動適正評価セミナー及び審査」 概要：長野県愛護センターでふれあい活動に参加する犬とハンドラーへの、活動における行動と気質の適正評価を説明した。</p>
<p>3 当該分野の実務業績に対する 産業界等の評価 (履歴書賞罰を再掲しています)</p>	<p>平成 6 年 6 月</p> <p>平成 6 年 6 月</p> <p>平成 8 年 7 月</p> <p>平成 9 年 7 月</p>	<p>ペット・パートナーズ第 1000 号栄誉賞受賞</p> <p>アメリカデルタ協会よりボランティア活動の功績への感謝状</p> <p>Coler Memorial Hospital より感謝状</p> <p>Coler Memorial Hospital より特別プログラム賞</p>
<p>4 その他</p> <p>①雑誌</p> <p>・日本愛玩動物協会が発行する雑誌「愛玩動物」における連載</p> <p>・インターズーが発行するペットビジネス誌「Neo」における連載</p>	<p>平成 12 年 3 月～ 平成 14 年 4 月</p> <p>平成 15 年 6 月～ 平成 17 年 6 月</p>	<p>連載の概要：先進国かつ高層集合住宅の文化のニューヨークで暮らす著者が、愛犬家としてまた、家庭犬育成飼養の専門家としての視点で、ペットと人の暮らしを綴る。</p> <p>連載の概要：日本におけるペット産業の急速な進展を、動物福祉、ペット産業、様々な視点で分析し人としての動物と暮らす理想的なあり方を分析する。</p>

<p>・ 緑書房が発行する雑誌「Relatio」における連載</p> <p>・ 時事通信社 12 回連載 平成 23 年 2 月 8 日～ 平成 23 年 5 月 7 日</p>	<p>平成 10 年 10 月 ～平成 14 年 1 月</p> <p>平成 23 年 2 月 8 日</p> <p>平成 23 年 2 月 25 日</p> <p>平成 23 年 3 月 4 日</p> <p>平成 23 年 3 月 11 日</p> <p>平成 23 年 3 月 18 日</p> <p>平成 23 年 3 月 25 日</p> <p>平成 23 年 4 月 1 日</p> <p>平成 23 年 4 月 8 日</p> <p>平成 23 年 4 月 15 日</p> <p>平成 23 年 4 月 22 日</p>	<p>連載の概要；それぞれのテーマに沿って、人と動物の関係を最先端の情報で紹介する。</p> <p>「飼い主で分かる犬の行動」 概要：犬がどのようにして飼い主との暮らしの中で学んでいくのか？飼い主の行動を観察しながら、人との暮らしの中で習得していく犬の行動の行程を説明した。</p> <p>「何があっても叱らない」 概要：叱責は犬にとって人との暮らしの中でのミスコミュニケーションを生み、問題解決にはならない事実を説明した。</p> <p>「排泄は損得を考えて」 概要：人にとって都合の良い場所での排泄を、犬にどのように教えていくのかを、犬の学習と行程をわかりやすく説明した。</p> <p>「クレートは魔法の箱」 概要：人との暮らしの中で、犬が安心して落ち着く場所としての「クレート」の重要性と、犬への導入の仕方を説明した。</p> <p>「クレートの扉を閉める」 概要：大半の犬がクレートの扉が閉まることへの嫌悪感を示す。犬への抵抗の無い楽しい扉の締め方の導入を紹介した。</p> <p>「要求を伝える手段」 概要：犬が飼い主への要求を伝える手段としての吠えは、人の暮らしにおいては問題である。なぜ吠えるのか？どのように対処するべきなのかをわかりやすく説明した。</p> <p>「大好物で嫌悪刺激を取り除く」 概要：犬の情動を変容する専門技術である「拮抗条件付け」を、飼い主でもできる簡単な方法で紹介した。</p> <p>「クレートに入ると得！を犬に教える」 概要：生の強化によるしつけの基本で、ご褒美の上手な使い方を紹介しながら、しつけにおけるご褒美のフードの重要性を説明した。</p> <p>「理想のお散歩は知的な運動」 概要：犬に負担のない楽しいお散歩は、犬にとって屋外での刺激に曝される知的な運動である。楽しいお散歩の導入方法を説明した。</p> <p>「飼い主に呼ばれたら行くと得な結果を教える」 概要：愛犬が呼んでも来ないことで悩む飼い主は少なくない。なぜ来ないのか？ではどうすれば喜んで飼い主の元へかけてくるのか？犬の視点で呼ばれたら走っていきたくなる「呼び戻し」の教え方を説明した。</p>
---	--	---

<p>③映画出演</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンタリー映画「犬と猫と人間と」出演 	<p>平成 23 年 4 月 29 日</p>	<p>「服従ではなく共生を目指して」 概要：しつけは愛犬を服従させるために教えるのではなく、共に快適に暮らせることを目指して、愛犬に人と暮らす技術の楽しいしつけの奨励を説明した。</p>
	<p>平成 23 年 5 月 7 日</p>	<p>「損得勘定で効果的なしつけを」 概要：人も犬も、得な行動は強化され、損な行動は消えて行く行動の原理は同じである。愛犬との快適な関係を築くためのより効果的なしつけの奨励した。</p>
	<p>平成 21 年 10 月 10 日劇場公開</p>	<p>保護動物たちとそれに関わるあらゆる人々への取材を綴ったドキュメンタリーに、愛護協会 で保護されている犬への体罰から正の強化を用いたトレーニングへの移行を導入したトレーナーとして、実際のトレーニングシーンを含めた出演した。</p>

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
1 著書、論文、その他の成果発表 (著書)		
1 ヘンリー、人を癒す—心の扉を開けるセラピー犬	平成8年10月	一人の日本人女性とセラピー犬のニューヨーク感動物語である。アメリカ在住の著者がボランティアを通じて体験した犬と人との心の交流を描いている。 扶桑社 B6判 全257頁
2 ヘンリー、人を癒す—心の扉を開けるセラピー犬	平成14年6月	ニューヨークをさまよっていたやせっぽちの子犬。シェルター（保護センター）で“おかあちゃん”と出会い、無事にお家を手にいれた彼、ヘンリーは、実はとんでもないやんちゃ坊主。おかあちゃんとはてんやわんやの日々を迎えることになる。しかしやがて、彼の類まれな才能が開花する 때가やってきた…。のら犬からご近所の人気者へ、そして天性の優しさで人を癒すセラピー犬へと成長していくヘンリー。人々の心に「小さな奇跡」を起こす、犬と人の物語を描いている。 角川書店 A5判 全303頁
3 ヘンリー、人を癒す—心の扉を開けるセラピー犬	平成19年11月	シェルター（飼い主のいない動物の収容所）に保護されていた野良犬と、ニューヨークで暮らす日本人女性との出会い。厳しいしつけと不服従、公園での批判や孤立。苦しくつらい道を経て、ヘンリーを誰からも愛される犬に育て上げる筆者。思いもよらずセラピー犬へと成長したヘンリーとともにはじめたボランティア活動が、さまざまな出会い、人間の心が作り出す可能性、動物の存在がもたらす恩恵のすばらしさを、教えてくれる。 ビーイング・ネット・プレス B6判 全277頁
4 高齢期の心理と臨床心理学	平成19年7月	加齢に伴う身体・心理機能の諸特徴や精神疾患、心理的適応等をわかりやすく解説し、アセスメントの仕方や各種心理療法の実際を具体的に紹介した高齢者理解のための絶好の入門的解説書である。 まず第Ⅰ部は、健康な加齢者が加齢によってもたらされる諸機能の特徴（身体・運動機能、記憶、知能、人格など）や人間関係、適応などについて、心理学的立場から解説し、高齢者の心理を理解することをめざす。 続く第Ⅱ部は、臨床心理学の観点から高齢期にかかりやすい初疾患の基礎知識をわかりやすく解説し、高齢者を客観的に理解するために役立つ各種アセスメントを紹介する。また集団療法として回想法、RO、カラージュ療法、アニマル・セラピー、家族療法、認知行動療法の内容や有効性、手法を紹介し、ターミナルケアやグリーンフカウンセリングなど、高齢者への心理臨床の実際に

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
5 動物介在療法の実践例	平成 15 年 9 月	<p>についても言及している。 培風館 A5 判 全 407 頁 共著者：横山章光、<u>山本央子</u>、 本人担当部分：「動物介在療法」</p> <p>概要：動物を介在させたプログラムに関する必要な知識を、福祉、医療等様々な分野の専門家によって紹介されている。 医歯薬出版 A4 判 全 87 頁 共著者：高柳友子、水越美奈、山崎恵子、<u>山本央子</u> 本人担当部分：P76「動物介在療法の実践例」</p>
(学術論文) 1 コンパニオン・アニマルをめぐる課題—特にペットロスと動物虐待，そしてアニマルセラピー	平成 17 年 12 月	<p>公衆衛生 第 69 卷 第 12 号 P971(34)~P975(35) 概要：日米における動物を介在させたプログラムの現状の比較と、先進国から何を学び、日本においてどのようにアニマルセラピーを取り入れていくべきかを追求した。 共著者：横山章光、<u>山本央子</u> 本人担当部分：P974(34)~P975(35) 日本と欧米におけるアニマルセラピーへの取組の現状</p>
(その他) 「翻訳」 1 原著者：Burch, Mary R. 邦訳表題：よくわかる!アニマルセラピー—動物介在療法の基礎とケーススタディ	平成22年4月	<p>原書名：Wanted! animal volunteers. Rev.ed. 動物と一緒に病院や福祉施設を訪問し、治療プログラムに参加する「動物介在療法（AAT）」や、ふれあい活動を行う「動物介在活動（AAA）」について、基礎的な知識と実践ノウハウをわかりやすくまとめたアニマルセラピー入門テキスト。老人ホームや病院、学校などでのケーススタディが豊富に掲載されている。 インターズー B5 判 全 189 頁 本人担当部分：全体の翻訳 監修：高柳友子 訳者：<u>山本央子</u></p>
「監修」 1 小型犬だからゆるゆるしつけ	平成 16 年 9 月	<p>概要：日本における家庭犬の大半を閉める小型犬種に特化した、飼養における解説をしている。 学習研究社 A4 判 全 112 頁 本人担当部分：全体の監修</p>

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

事 項	年 月 日	概 要
<p>「シンポジウム」 1 応用行動分析学を知る</p>	<p>平成21年6月 (筑波大学)</p>	<p>著者：Canine Unlimited 監修：水越美奈、<u>山本央子</u>、金子真弓</p> <p>日本行動分析学会第27回年次大会 オペラント条件づけを中心とした行動分析学の知識や技術は、障がい児・者の学習・自立支援、企業の業務能率改善、スポーツの成績向上などさまざまな場面で活かされている。その1つに、犬のしつけやイルカショーなどの動物訓練がある。本シンポジウムでは、そうした応用行動分析学を紹介することを目的とした。 本人担当部分：家庭犬の育成指導を専門とする応用行動分析学の実践家として、現場での取り組みを紹介した。 企画・司会：中島定彦 話題提供：杉山尚子、杉崎一彦、<u>山本央子</u> 指定討論：眞邊一近</p>
<p>2 『罰なき社会』を再考する。</p>	<p>平成25年7月 (岐阜大学)</p>	<p>日本行動分析学会第31回年次大会 B.F.スキナーが1979年に来日し、慶應義塾大学にて『罰なき社会』について講演してから34年が経過した。この間、我が国においても、行動分析学は順調な発展を遂げ、特に発達臨床や特別支援教育といった応用領域においては、「正の強化」を使って子どもの支援や指導を進める考え方や方法論が、学校や家庭に広まりつつある。その一方で、個人や社会の幸福にとって必要条件とスキナーが考えていた罰によるコントロールの放棄は、未だ進んでいるとは言えない。子どもの自殺によって発覚したように、体罰が公然と行われている学校も残存する。体罰を容認する家庭もあれば、虐待に至る事例も後を絶たない。 スキナーは罰を“人類の苦しみの最後の源”と位置づけ、行動分析学は「正の強化」の手法の開発と普及によって罰なき社会の実現に貢献できると信じていた。あるいは、罰なき社会の現実のためには、他にどのような条件を整える必要があるのだろうか。 本シンポジウムでは、学校や家庭における「罰」について、罰的な手段を用いる教師や親や飼い主の行動を維持している変数について検討し、罰なき社会を実現するための方法について議論することを目的とした。 本人担当部分：家庭や訓練所における飼い犬のしつけや訓練について、それぞれ「罰」や「正の強化」の使われ方の現状とその原因について話題提供した。 話題提供：島宗理、奥田健次、<u>山本央子</u>、杉山尚子</p>

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
「雑誌掲載」 1 海外レポート ニューヨーク AAT 事情	平成10年10月	リラティオ 第1巻 第1号 P.34～P.37 概要：ペット文化の先進国の中心部ニューヨークにおける動物介在療法の現状を伝える。
2 海外レポート(2)心のリハビリテーション～動物を癒し、自らも癒されるーグリーン・チムニーズ (米国)	平成11年2月	リラティオ 第1巻 第2号 P.47～P.49 概要：ニューヨーク州ブリュースターにある児童施設グリーンチムニーズは、児童虐待、自閉症などの障害を抱える児童達に、農園や保護動物の世話を社会復帰のプログラムとして用いている。
3 ペットのいる暮らし	平成12年3月	愛玩動物 第151巻 P.8～P.9 概要：ニューヨーク在住の著者が、自らペットと暮らす実体験をもとに、専門家としての様々な情報を、世界でも最先進国の中心から届ける。
4 芸能界と動物たち	平成12年5月	愛玩動物 第152巻 P.8～P.9 概要：著者自身が、愛犬と共に過ごした数々のテレビや映画などメディアの仕事を通して、動物たちが芸能活動でどのように守られ、活動をしているかを紹介する。
5 動物たちの QOL	平成12年7月	愛玩動物 第154巻 P.10～P.11 概要：人はペットに癒しを求め、憩いを求めて暮らし始めるが、言葉を持たない動物たちの暮らしの質は、誰がどのように定義できるのだろうか？
6 ペットの暮らしと法律	平成12年9月	愛玩動物 第155巻 P.10～P.11 概要：世界一の訴訟の街ニューヨークならではの、ペットにまつわる様々な法律を紹介していく。排泄物放置は\$100, 公共の場におけるオフリードは\$100, 執行機関も警察、公園管理局、保険衛生局など日本ではありえない現状の数々。
7 猫の救済活動	平成12年11月	愛玩動物 第156巻 P.16～P.17 概要：大手ペットショップから生体販売が撤退され始め、個人商店から大手ペットストアまで、ほとんどの店頭では猫の譲渡活動が行われている様子を伝える。
8 海外情報 米国サービス・ドッグ事情	平成12年2月	リラティオ 第2巻 第1号 P.57～P.59 概要：近年、日本では補助犬法案という使役犬を守る法律が確立されているのに対し、アメリカでは身体障害者法という、人の法律のもとで補助犬

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
9 アニマル・シェルター	平成12年9月	<p>たちの活動は守られているなど、日米の障害者と障害者を支える社会の相違点を考える。</p> <p>リラティオ 第2巻 第3号 P.89～P.90</p> <p>概要：保護犬たちを収容するアニマルシェルター。アメリカを代表するシェルターで行われている、収容動物の行動評価や、評価後の譲渡の様子を伝える。</p>
10 動物たちの祝福日	平成13年1月	<p>愛玩動物 第157巻 P.16～P.17</p> <p>概要：自然環境保護の聖人と呼ばれた、聖フランシスの命日にちなんで、アメリカの多くのカソリックの教会では、10月第一日曜日に動物たちへの福音のイベントが行われる様子を伝える。</p>
11 水泳療法—動物のリハビリ	平成13年3月	<p>愛玩動物 第158巻 P.10～P.11</p> <p>概要：水中の浮力を活かして、術後のリハビリテーションとしてプールで行われる「ハイドロセラピー／水泳療法」を紹介する。</p>
12 応用動物行動学	平成13年5月	<p>愛玩動物 第159巻 P.6～P.7</p> <p>概要：全米で初のペットの問題行動のカウンセリングを、アニマル・メディカル・センターで行う、著者の師でもある、応用行動分析家の P.ポーシェルト博士の活動をインタビューを通して紹介する。</p>
13 ペット・ロス・カウンセリング	平成13年7月	<p>愛玩動物 第160巻 P.18～P.19</p> <p>概要：全米初の「ペットロス・カウンセリング」の専門家、S.コーヘン博士の活動をインタビューを通して紹介する。</p>
14 ペットのナチュラル・ケア	平成13年9月	<p>愛玩動物 第161巻 P.18～P.19</p> <p>概要：ホメオパシーや様々な代替療法が盛んなニューヨークでは、近代医療のホームドクターとホリスティックの専門獣医師が連携で治療を行うことも珍しくない。ホリスティックの臨床獣医師による、適切なケアの説明を紹介する。</p>
15 9.11 大参事と動物たち	平成13年11月	<p>愛玩動物 第162巻 P.18～P.19</p> <p>概要：2001年9.11、突然ニューヨークを見舞った同時多発テロ。多くの人々の命が奪われ、多くの動物たちもまた飼い主を、家を失った。被災した動物たちの救済活動、著者にとって最後の愛犬を伴う動物介在活動となった、被災者センターでの犬たちの活動などを紹介する。</p>

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
16 ヘンリーという1頭の犬との出会いが私に与えてくれたことは、人と動物の絆、そして人と人との輪	平成14年1月	リラティオ 第3巻 第4号 P.86～P.91 概要：1匹の犬をシェルターから引き取ったことで、著者のニューヨークでの暮らしが大きく展開し、人と暮らす動物たちと、その動物たちと暮らす人々、様々な面で影響を与え合う、人と動物の相互作用を、著者自らの体験談を通して語る。
17 犬のしつけ 人との共生マナー しつけ（トレーニング）はなぜ必要か？	平成14年10月	リラティオ 第4巻 第1号 P.16～P.18 概要：犬のしつけとは、何を、何のために、誰のために犬に教えるのであろうか？愛犬と幸せに暮らすために、犬のQOLを考慮した、コミュニケーションの成立する犬との暮らしを考える。
18 人と動物、そして虐待	平成14年1月	愛玩動物 第163巻 P.10～P.11 概要：児童虐待、家庭内暴力、そして動物虐待のリンクに関する研究が進むアメリカの社会。人への虐待と動物への虐待、その心理の相互性は？
19 決心の行方	平成14年6月	看護 第54巻 P.18～P.19 概要：人生を変える決心を、人は一生に何度経験するのであろうか？著者の決心は進み続けることであり、進む道を決めることではなかった。母国を離れて辿った道を振り返っての回顧録。
20 一兆円産業／ペットビジネス	平成15年6月	Neo 第141巻 P.12～P.13 概要：ペット産業が急速に展開していく中で、愛玩動物として単に可愛がるペットから、家族、伴侶動物と呼び名が代わり、飼い主の要望も暮らしの中における「質」の追求が求められるようになってきた。より質の高いペット産業とは？を考える。
21 水中の天使／観賞魚の世界	平成15年7月	Neo 第142巻 P.10～P.11 概要：友人が置き去りにしていった空の水槽、カメラマンの知人が撮影後に置いていった熱帯魚。ある日突然著者の部屋に現れた「水槽のある暮らし」を通して、犬以外にも「育てる喜び」が始まり、改めてペットの種類を問わず、生き物がもたらす育てる喜びを述べる。
22 取り扱い説明書無しのペット販売	平成15年8月	Neo 第143巻 P.12～P.13 概要：小ケースの中で愛嬌を振りまくペットたち。しかし、育てる上で必要な知識も情報も曖昧な状態で、販売される動物たち。その生き物に関するより豊富な知識が、よりその生き物を健やかに育て、ペットのいる暮らしを豊かにしていく。

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
23 人と犬、それぞれの幸せ	平成15年9月	<p>適切な飼養の知識の重要性を説く。</p> <p>Neo 第143巻 P.12～P.13</p> <p>概要：情報や物品の氾濫する日本のペット市場とは裏腹に、去勢避妊の普及率の低さ、室内で飼う時代の到来で、トレーナーの認定が急増、しかし排泄は紙の上、生産性と利益追求の中で欠落している質と幸せを考える。</p>
24 勘違いの癒し	平成15年10月	<p>Neo 第145巻 P.10～P.11</p> <p>概要：アニマルセラピーという名称が市民権を得たように、熱心な愛犬家の人々と活動を運営する側が中心となっている実態に、本来の「誰のための、何のための活動なのか」と再考する。</p>
25 ペット産業適職選び	平成15年11月	<p>Neo 第146巻 P.10～P.11</p> <p>概要：ペット産業の発展の顕著な側面に、「看護、美容、訓練」と言った専門職としての憧れも、今までになく身近になってきている。しかし、あくまで生き物を扱う特殊な専門職という技術の習得以上に、憧れの職業と化して現状を再考する。</p>
26 街で見かける人と動物の関係	平成15年12月	<p>Neo 第147巻 P.10～P.11</p> <p>概要：暮らしの中、部屋の中にいるペットだけが、人の暮らしを潤しているとは限らない。街の公園や池の側で金魚や鳩を観るのを楽しむ人々、近所のお馴染みの犬たちが訪れるのを待つ子供達や、お年寄り。何気無く街角で見かける、人と動物の関わりを紹介する。</p>
27 深刻な外来種問題	平成16年1月	<p>Neo 第148巻 P.18～P.19</p> <p>概要：「外来種」、「移入動物」など、最初は人の楽しみや適切な目的のために、私たちの社会に取り入れられて、人の管理の無責任さで異常繁殖～処分の現状の中で、失われていく命への人の責任を問う。</p>
28 憧れの芸能界／動物タレント	平成16年2月	<p>Neo 第149巻 P.8～P.9</p> <p>概要：言葉で意思表示のできない、子供と動物を映画の撮影や芸能活動から守るため、厳しいガイドラインで芸能界を取り締まる American Humane アメリカ人道協会。著者の愛犬との芸能活動を通して、動物タレントの擁護のあり方を紹介する。</p>

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
29 身体障害者補助犬法と社会	平成16年3月	Neo 第150巻 P.8～P.9 概要：平成14年10月より「身体障害者補助犬法」が施行され、15年より補助犬認定が始まるにあたり、日本の社会における補助犬のあり方、そして障害を抱えて暮らす人々の社会を、日米の比較で紹介する。
30 植物と暮らす	平成16年4月	Neo 第151巻 P.18～P.19 概要：動物だけが育てる喜び、成長を見守る喜びを与えてくれる存在ではなく、植物「園芸」の楽しさ、適切な知識でよりよく育つ、生き物としての植物との暮らしの楽しさを紹介する。
31 ペットの老後	平成16年5月	Neo 第152巻 P.10～P.11 概要：愛くるしい子犬の時代から、いたずら、しつけの苦勞、紆余曲折を越えて掛け替えの無い家族の一員のペットの高齢化を、いかにして長年の憩いの恩返しとして暮らすかを述べる。
32 犬と暮らす人、人と暮らす犬	平成16年6月	Neo 第154巻 P.6～P. 概要：著者の職業は家庭犬育成指導、しつけの先生である。犬との暮らしは、犬を知ること。そして犬には人との暮らしを教えること。種の違う人と犬が幸せに暮らすための、お互いの学びの必要性を述べる。
33 動物に投影された人の心	平成16年7月	Neo 第155巻 P.8～P.9 概要：犬はよく擬人化されて語られる。そのルーツには、狼信仰とも言われる、狼に投影された「獣の美学」がある。人と狼の歴史を通して、動物に投影されてきた人の心を紹介する。
34 私の青い鳥	平成16年8月	Neo 第156巻 P.10～P.11 概要：ペット産業の勢いは、犬の飼育頭数の増加に反映されているが、その裏でかつては愛されていた鳥類たちの魅力を語る。
35 子犬ちゃんの世界	平成16年9月	Neo 第157巻 P.8～P.9 概要：子犬から飼うことへの信仰は深い。懐きやすい、育て易い、それらが単なる子犬信仰のまやかしであり、可愛らしさだけでもはやされる、子犬から飼うことへの落とし穴を指摘する。
36 猫の幸せ	平成16年10月	Neo 第158巻 P.12～P.13 概要：犬と猫の違いは、人の意識の違いだけであ

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
37 人と動物の関わり	平成16年11月	<p>り、人と暮らすことへの学習能力は犬と比べて殆ど差はない。猫に犬に教える様々なコミュニケーションの学習の機会を与えることによる、猫の人と暮らす QOK の向上を考える。</p> <p>Neo 第 159 卷 P.6～P.7 概要：人と動物の関わりをキーワードに、様々な視点で討論されるシンポジウムを紹介しながら、「人と動物の関わりは、人と人の関わりである」という結びにたどり着く。</p>
38 災害とペットたち	平成16年12月	<p>Neo 第 160 卷 P.8～P.9 概要：地震や豪雨、またはテロなどで被災した動物たちと、その動物たちを救う人々の活動を、日米双方のそれぞれのあり方を紹介する。</p>
39 小型犬のしつけ	平成17年1月	<p>Neo 第 161 卷 P.20～P.21 概要：小型犬だから飼うのが簡単、躰が簡単、問題行動による被害が少ない、など、小型犬故に軽視されがちな問題を、大きさは違っても「犬」という生き物としての視点から再考する。</p>
40 家庭犬のしつけ、まとめ	平成17年2月	<p>Neo 第 162 卷 P.8～P.9 概要：犬を飼うときに考える、犬種、サイズ、飼養環境と飼い主の暮らしと現実など、様々な角度からしつけのあり方、必要性などを考える。</p>
41 ペットの豊かな暮らし	平成17年3月	<p>Neo 第 163 卷 P.20～P.21 概要：ペットの視点で考える、ペットにとって人と暮らす上での豊かな暮らしとは？その種の本来の生態系を考えた育成環境など、ペットから人が得る「恵」とは、人側だけで成立するものではないことを述べる。</p>
42 教え育てる教育	平成17年4月	<p>Neo 第 164 卷 P.20～P.21 概要：ペット関連の専門職であっても、飼い主を対象とした技術が必要とされる。生き物であるからこそ、それぞれの飼い主とそのペットたち、個々に対応できる専門家であることの重要性、学ぶことへの追求を述べる。</p>
43 輪廻転生～もし生まれ変わったら	平成17年5月	<p>Neo 第 165 卷 P.24～P.25 概要：「いつまでも一緒」には、飼い主の変わらぬ望みである。飼い主が豊かな心で育てられたペットは幸せであろう。犬に生まれ変わりたい、と願えるような良い飼い主を目指したいと願う著者</p>

研究業績等に関する事項		
事項	年月日	概要
44 人と動物の絆の架け橋	平成17年6月	<p>の思いを語る。</p> <p>Neo 第165巻 P.24～P.25</p> <p>概要：アニマルセラピー、ペットロス、愛護や保護活動、活字になるペットの社会は先進的に映るが、果たして本当に私たちはペットから様々な恩恵を受ける資格があるのだろうか？ペット産業とは、人と動物の豊かな暮らしの架け橋となるべきである。</p>
2 特許等 なし		
3 その他 なし		